

4/1 (木) 北陸中日新聞

新型コロナウイルスの影響で経済的に困っている県内在住の外国人を支援するため、生活必需品を無償で提供する取り組みが広がっている。県内で外国人技能実習生が2番目に多い白山市の国際交流サロンでも4日、無償提供を予定しており、地域住民から食料や日用品が続々と寄せられている。(都沙羅)

コロナ苦境 外国人助けたい

物資支援 県内広がる



食料や日用品の配布を準備するサロンのスタッフ＝白山市古城町で

日本語教室を開くサロンには週に約四十人の実習生が訪れる。スタッフの一人、山本恵理さんは「コロナ以降、実習生から生活の苦しさを訴える声を聞きま

す」と話す。実習生たちは、外国人住民が苦境に陥る動機先の経営悪化から勤務日数や残業時間が減り、給料も減額。サロンに通う

4日は白山で実施 住民ら次々提供

から寄せられた食料品を困窮する外国人住民に贈るネットワークを設立。秋には小松市国際交流協会が食料品などを無料で配布した。今年一月には金沢市の専門学校でも同様の支援があった。白山市では外国人住民の約六割を技能実習生が占める(昨年末時点)。今年二月下旬、サロンが有志に呼び掛け物品の提供会「ふれんどりいBOX」を開いた。利用した外国人住民からは「食べ物をもらえてありがたしい」と好評で、支援を続けることにした。四日には同市国際交流協会の会員が持ち寄った米や缶詰、レトルト食品、マスク、タオルを提供する。山本さんは「少しでも外国人の力になれば。欲しい人は取りに来てください」と話す。配布時間は午後1～4時。◎サロン076(274)337

4/4 (日) 北陸中日新聞

## ネパールの文化紹介 白山市移住のカルキ一家



ネパールの文化などを紹介したスタルサンさん(左)、シャルミラ・ターバさん(中)、スバサナさん(右)＝白山市古城町で

白山市国際交流協会は三日、異文化に理解を深める講座「ネパールについて学ぼう！」を国際交流サロン(古城町)で開いた。昨年十一月に同市に移住したネパール出身のカルキ一家が、母国の文化や来日に至る経緯を参加者約三十人に語った。

夫のスタルサンさん

(左)妻のシャルミラ・ターバさん(中)、長女で松任小学校六年のスバサナさん(右)が民族衣装に身を包み登場。スタルサンさんは母国民の八割以上が信仰するヒンズー教やスパイスたっぷりの食事などについて写真を見せながら紹介した。スバサナさんはネパール語の日常のあいさつを、日本

語に照らし合わせながら読み上げた。一家との懇談もあった。

母国の情勢不安から、シャルミラさんは二〇一四年、仙台市に留学。その後、宮城県の宿泊施設で勤務し、一九年に白山市に転勤。昨年十一月、母国に残っていた二人が来日し、一家で新生活を送っている。

シャルミラさんは「一人で日本で働いていた時は苦しかったけど、今は地域の皆さんの支えでとてもうれしい気持ちです」と話した。(都沙羅)

4/4 (日) 北國新聞

ネパール出身のカルキさんと親睦

白山市国際交流協

白山市国際交流協会の国際理解講座「ネパールについて学ぼう」は3日、同市国際交流サロンで開かれ、参加者がネパール出身のカルキさん一家と親睦を深めた。

カルキ・スタルサンさんと妻のターバ・シャルミラさん、娘のスバサナさんは昨年11月に同市に転入した。参加者はカルキさんからネパールの社会情勢や文化、あいさつなどを学んだ。



ネパールについて紹介するカルキさん家族

白山市国際交流サロン

4/11（日）北國新聞



## 白山、溧陽市友好深め

# 石川南

中国でお茶まつり  
オンラインで参加

白山市は10日、友好都市の中国・溧陽市で開催された「お茶まつり」の開幕式にオンラインで参加し、さらなる友好を誓い、太鼓演奏を披露するなどして祭典に花を添えた。写真。

白山市松任学習センターから中継が行われ、山田憲昭市長が「コロナ収束後は

両市の友好をより一層深めていきたい」とメッセージを送った。青少年太鼓チーム「和太鼓サスケ」の13人が演奏を繰り広げ、力強い音色を響かせた。

4/22 (木) 北國新聞

# でくまわし

## 英訳絵本に

白山市国際交流協会は21日までに、白山麓に伝わる国重要無形民俗文化財の人形浄瑠璃「尾口のでくまわし」を英語で紹介する絵本2作を完成させた。昨年7月に製作した「酒宴童子」と合わせた全3作を姉妹都市に贈り、市の伝統芸能を海外にアピールする。紙芝居の動画も配信し、コロナ禍で発表機会が減っている文化財を広く紹介する。

### 白山市国際交流協 尾口の伝統紹介

でくまわしは旧尾口村の東二口と深瀬に350年以上前から伝わる。哀愁のこもった「泣き節」の語り口とともに、「でく」と呼ばれる人形を操



完成した英訳の絵本—白山市役所

### 2作完成 姉妹都市に寄贈

ホルマンさん(63)は徳島市在住。英訳し、東二口文弥人形浄瑠璃保存会と白山市内で絵本の制作に取り組み「リトル・モウ」が協力した。

今回完成したのは、竜に奪われた宝を海女が自分の体内に隠して取り返す「大職冠」と、源義朝の子もたちが平家討伐を企てる「源氏烏帽子折」の2作品。平安・鎌倉期の役職や位、日本独自の風習を丁寧に翻訳し、欧米人にも伝わりやすいようにした。

動画も2作品分を用意し、それぞれ12分ほどにまとめ、投稿サイト「ユーチューブ」で配信する。紙芝居のほか、市国際交流員のケニエル・ヘリオットさん(29)は英国出身。らが東二口文弥人形浄瑠璃保存会のメンバーにインタビュールした内容を盛り込んだ。

絵本は今後、白山市の姉妹都市である米・コロンビア市などに贈る。市内の小中学校や県内の図書館、留学生が在籍する教育機関などにも配布する。

東二口では毎年2月に浄瑠璃を披露する祭りを開催しているが、今年は新型コロナで中止となった。市協会は市民にも魅力を知ってもらいたい考えで、ヘリオットさんは伝統を継承する保存会の強い思いが伝わる動画になった。コロナ後にでくまわしを観賞するきっかけになるとつれし」と話した。

5/8 (土) 北陸中日新聞

(写し複製物許可)

でくの舞の新作絵本「出せ景清」を手にする道下甚一会長(左)＝白山市尾口公民館で



白山市国際交流室が制作した動画(写真左)と英語版の絵本。同市役所で

北

# でくの舞親しみやすく

## 白山市など 絵本や英語動画制作

白山麓に約三百年前から伝わる東二口文弥人形浄瑠璃「でくの舞」(国重要無形民俗文化財)の演目を現代語訳した絵本や英語

絵本は二〇一六年から保存会と市民団体「リトル・モウ」が手掛ける。これまで三演目を描いた三冊を出版し、今年三月に四演目となる「出せ景清」をA4判三十六ページで完成させた。平家に仕えた豪傑「悪七兵衛景清」が源平合戦に敗

れ、源頼朝を滅ぼそうと復讐を企てるという筋立て。保存会の道下甚一会長は「名前の『悪』は悪人の意味ではなく勇猛という意味。浄瑠璃が大切にされる義理人情を描いたような男の話」と語る。

でくの舞を海外に発信する市国際交流室は、英語版の絵本と動画を制作。同市の姉妹都市、米コロンビア市にあるミズーリ州立大元教授のマーティン・ホルマンさんが「酒呑童子・大江山」「大職冠」「源氏烏帽子折」の三演目を翻訳した。市はさらに、金城大短期大学部(同市笠間町)のガート・ウエスタハウト教授が三演目の紙芝居を英語で読み聞かせる動画も撮影。各十分ほどで、動画投稿サイト「ユーチューブ」に公開した。

国際交流室の浦野彩夏さんは「市の浄瑠璃の魅力が海外にも届けば」と話す。

(都沙羅)

5/13 (木) 北國新聞

# 石川南

「尾口のでくまわし」PR

## 今秋、3団体が上演会

徳島の人形座参加

白山市国際交流協会は今秋、国重要無形民俗文化財の人形浄瑠璃「尾口のでくまわし」発信に向け、市内外3団体による上演会を初開催する。地元2保存会と、白山の姉妹都市である米コロンビア市ゆかりの人物が設立した人形座「徳米座」（徳島市）が共演し、伝統文化の浸透と国際交流の推進につなげる。

12日開かれた理事会で事業計画を承認した。徳米座は、米コロンビア・ミズーリ州立大元教授で、人形浄瑠璃研究家のマーティン・ホルマン氏が設立した。同氏は尾口のでくまわしの英訳を担当するなど白山麓の伝統文化の海外発信に協力しており、昨年、白山市から国際友好表彰を受けた。同市からは東二口文弥人形浄瑠璃保存会と深瀬木偶返し保存会が参加する。事業計画にはこのほか、日常生活に関する細かな情

報を掲載した外国人住民向「まれた。役員改選では福田の冊子制作などが盛り込 裕会長を再任した。

## 白山と徳島浄瑠璃協演

3団体 10月、松任、ふるさと館で

白山市国際交流協会は十日、松任文化会館で理事会を開き、市に伝わる人形浄瑠璃を守る二つの保存会と、徳島市の人形座「徳米座」が今年十月、白山市松任ふるさと館で人形浄瑠璃を協演し伝統文化を発信すると明らかにした。

同市の姉妹都市、米コロンビア市出身の人形浄瑠璃研究家マーティン・ホルマンさん＝徳島市＝が縁をつないだ。徳米座の座長を務めるホルマンさんは、姉妹都市交流をきっかけに白山市の人形浄瑠璃を題材にした絵本の英訳をしている。当日は、市の「東二口文弥人形浄瑠璃保存会」と「深

瀬のでくまわし保存会」とともに実演する。理事会では、市内で増加する外国人に向けて子育てや医療、防災情報をヘトナム語や中国語などでまとめたガイドブックを年内に作成することも報告した。役員人事では、福田裕会長を再任した。

(都沙羅)

5/13 (木) 北陸中日新聞

5/20 (木) 北國新聞

### 市国際交流サロンに募金箱

新型コロナウイルス感染が拡大しているネパールを支援しようと、同国出身で白山市在住のターバ・カルキ・シャルミラさん(38)が19日、募金活動を始めた。市国際交流サロンに募金箱を設置し、26日まで善意を募る。ネパールでは感染しても治療を受けられない人が多く、シャルミラさんは「少しでも母国の助けになれば」と願っている。

昨年11月に白山市に転入し、市内のホテルで勤務するシャルミラさんは、母国で苦しむ人々を支援したいと、企画の在日ネパール人としての支援の会に参加。

### 白山から母国に善意届け

ネパール出身・シャルミラさん



市内でも活動を知ってもらおうと市国際交流協会に相談し、募金箱を設置した。

ネパールではシャルミラさんの母やきょうだいも新型コロナウイルスに感染し、病床で入院できない時期があった。現地は日々の仕事や食事の調達に困っている人も多く、低所得者は治療を受けられない状況という。

募金は現地の活動家を通じて、病院で使う酸素ボンベなどに充てられる。シャルミラさんは「その日食べられるものに困っている人が多く、コロナの影響は大きい。日本から支援を届けたい」と話した。

ネパールへの募金を呼び掛けるシャルミラさん(右) — 白山市国際交流サロン

5/20 (木) 北陸中日新聞



ネパールを支援する募金を始めたシャルミラ・ターバさん(右) 白山市国際交流サロンで

## ネパールを助けて

白山市在住のネパール人女性シャルミラ・ターバさん(37)が19日、新型コロナウイルスの感染が急拡大する母国を支援するため、募金活動を国際交流サロン(伊市古坂町)で始めた。同国では酸素ボンベが不足し、感染者が十分な治療を受けられず、ワクチン接種も進んでいない。知人も次々と亡くなっているという。「政府に期待できないので、私たちが少しでも何かしたい」と支援を呼び掛ける。(都沙羅)



ネパールは南アジアに位置し、インドと国境を接している。人口は約2億7000万人で、ネパールの首都カトマンズは、人口約100万人がある。3月上旬には一部閉鎖された感染者受け入れは1千人に達した。政府はワクチン接種を進めて、同国政府は接種は1000人に限る。

難民への関与も指摘し、日本国政府は「人口増加が急激で、ネパールは貧困が深刻な国である」と指摘している。ネパールは、ネパール人の多くは日本から移住して、建設者としての経験を活かして、国際交流サロンに集まっている。シャルミラさんは「このネパールには、母国で苦しむ人々を支援したい」と話した。

### 白山で募金活動「私たちが少しでも何かしたい」

ネパールは南アジアに位置し、インドと国境を接している。人口は約2億7000万人で、ネパールの首都カトマンズは、人口約100万人がある。3月上旬には一部閉鎖された感染者受け入れは1千人に達した。政府はワクチン接種を進めて、同国政府は接種は1000人に限る。

難民への関与も指摘し、日本国政府は「人口増加が急激で、ネパールは貧困が深刻な国である」と指摘している。ネパールは、ネパール人の多くは日本から移住して、建設者としての経験を活かして、国際交流サロンに集まっている。シャルミラさんは「このネパールには、母国で苦しむ人々を支援したい」と話した。

母国が感染拡大

シャルミラさん訴え



5/26 (水) 北陸中日新聞

## 白山市 英国の中高生とオンライン交流 ホストファミリーを募集



2017年にホームステイ交流で白山市を訪れた英国・ボストン町の生徒たち。今年はオンラインで国際交流を続ける。白山市内で(同市提供)

白山市は、姉妹都市の英国・ボストン町の中高生と、七月からオンラインを通して交流する、市内のホストファミリーを募集している。新型コロナウイルス禍で外国との往来が困難な中、インターネットを活用して草の根の国際交流を継続する試み。締め切りは三十一日。

同市町では例年七月、中学生を対象にホームステイ

交流をしてきた。昨年は新型コロナウイルス禍で中止になった。今年もホームステイは難しい状況だが、昨年同市に来る予定だった中高生が交流を希望し、オンラインでの交流を企画した。

交流する中高生は男子二人、女子五人。文化や学校生活、近況などについて、メールやビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」などを使って交流する。中

5/26 (日) 北國新聞

### オンライン交流 参加家族を募集

白山市

白山市は姉妹都市である英国ボストン町の中高生とオンラインで交流するホストファミリーを募集している。市内在住の中高生がいる家族が対象で、定員は7組となる。申し込みは21日まで。問い合わせは市国際交流室まで。

高生は新型コロナウイルス禍の状況が改善されれば、来年七月に同市でホームステイする。

募集しているホストファミリーは、中高生七人(男子二人、女子五人)とその家族。市国際交流室がサポートする。応募は、参加申込書を交流室に提出する。

応募多数の場合は抽選。交流室の担当者は「外国に行くのが難しいだけに、

生徒同士だけでなく、家族で国際交流を楽しんでもらえれば」と話している。

市国際交流室 076(2)74) 9520  
(飯田克志)



5/27 (木) 北國新聞

ネパール支援募金 市内外から28万円  
 白山のシャルミラさん

新型コロナウイルス感染が拡大しているネパールを支援するため、同国出身で白山市在住のターパ・カルキ・シャルミラさん(38)が取り組んでいる募金活動に26日までに、市内外から28万2861円の善意が集まった。支援金は現地の病院で使う酸素ボンベの購入などに充てられる。

シャルミラさんは昨年11月に同市に転入し、市内のホテルで働いている。母国で苦しむ人々を支援したいと、市国際交流サロンに19日から募金箱を設置し、協力を呼び掛けてきた。

5/27 (木) 北陸中日新聞

## ネパール募金 善意に感謝



感謝を語るシャルミラ・ターバさん(右から2人目)と県内在住ネパール人ら。白山市古坂町で

白山のシャルミラさん企画  
 コロナ感染拡大の母国支援

白山市在住のネパール人女性シャルミラ・ターバさん(38)が企画した、母国で新型コロナウイルスの感染に苦しむ人を支援する募金活動が二十六日、終わつた。市内外から支援が寄せられ、シャルミラさんは「心から感謝」と声をつまらせた。

ネパールは変異株が拡大するインドと国境を接し、

一日約八千人の感染が確認されているという。酸素ボンベが不足し医療態勢が整わず、ワクチン接種も進んでいない。

募金は十九日に始まり、国際交流サロン(同市古坂町)に募金箱を設置。サロンによると、金沢市や小松市からも募金に訪れた。

二十六日、シャルミラさん一家や県内在住ネパール人、ネパール人を支援する白山市の島崎四郎さん(91)らが集まり募金箱を開封。計二十八万二千八百六十一円が集まったほか、「ネパールの状況を教えてくれてありがとうございます」「応援しています」と書かれた手紙も入っていた。

集まったお金は二十五人分の酸素ボンベになる。二十七日に、現地のジャーナリストを通じて貧困者向けの無料の病院に寄付する。シャルミラさんは「支援してくれた一人一人にありがとうを言いたい。私は日本のために何でも頑張れる」と感謝した。

(都沙羅)

6/7 (月) 北國新聞

**外国人女性が交流**  
**白山・わいわいカフェ**  
 白山市国際交流協会の「わいわいカフェ」は4日、オンラインで開かれ、海外出身で市内在住の女性らが交流を楽しんだ。

中国、ベトナム、フィリピン出身の3人が参加し、生理中や出産後の過ごし方などについて、出身国と日本との違いを紹介し合った。わいわいカフェは日本語学習者と市民の交流の場として月2回開いており、今回初めて女性限定で実施した。

6/10 (木) 北陸中日新聞

**外国人女性の悩み**  
**オンライン相談会**  
**白山市国際交流協**  
 白山市国際交流協会は、外国人と市民が交流する「わいわいカフェ」を、初めて女性だけに参加者を限定して同市古城町の市国際交流サロンで開いた。女性たちの心身の悩みなどを、気軽に語らい、必要な支援につなげる。

同協会は、外国人女性は言葉や文化の壁から、女性ならではの問題も相談しづらい面があるため、毎月二回開催しているカフェの女子会版として企画した。カフェは新型コロナウイルスの感染拡大を考慮して五月は休止。女子会版は今月四日、オンライン会議システム



オンラインで開かれた外国人女性らの「わいわいカフェ」＝白山市古城町で

ム「Zoom（ズーム）」を使って開催した。

市内で子育てしながら暮らす中国、フィリピン、ベトナム出身の女性三人が自宅から参加。モニター越しに、サロンのスタッフが「元気でしたか」と呼び掛けると、参加者は「お久しぶりです」「新型コロナウイルスでずっと家にいます」と応じ、和気あいあいな雰囲気

に。体を冷やさないと夏でも冷たい料理は食べないかや、生理になったときの対応などを語り合った。

参加した女性は「久しぶりに会え、女子会の雰囲気ですごくできて楽しかった」と笑顔。スタッフは「女性が気軽に悩みを話せるよう、続けていきたい」と話した。（飯田克志）

**議会だより**  
 9日

【川北町】定例会を開会し、会期を16日までと決めた。2月に落雷とみられる事故で揚湯管が断裂した川北温泉2号源泉の復旧工事費2205万円などを計上した5600万円の本年度一般会計補正予算案など12議案を提出。このうち、同温泉1号源泉の予備ポンプ購

6/9 (水) 北陸中日新聞

# シャイな80歳 手紙と篤志

## 白山でのネパールコロナ募金に

白山市で暮らすネパール出身のシャルミラ・ターバさん(30)が五月中旬に呼び掛けた、母国の新型コロナウイルス感染者を支援する募金。活動終了後の今日(2)日、募金箱を置いていた白山市国際交流サロン(古城町)に、送り主が書かれていない激励の手紙と寄付金二十万円が届いた。シャルミラさんは「何回ありがとうを言っても足りない。できれば会いたい」と感謝している。

(都沙 雅)



寄付が報道された新聞の電子版記事を紹介するシャルミラ・ターバさん

### 主催したシャルミラさん「会って感謝伝えたい」

手紙には、「あなたの勇気 づられていた。と行動に感銘を受けました。私は引つ込み思案の八十歳。自分に何が出来るか考え、お手紙が届いた翌日、さっそく寄付金の二十万円を病院

や食料がない貧しい村など支援が必要な場所へ送った。七日には、寄付金で購入された食料が住民に届けられた様子が現地の新聞で報道された。

シャルミラさんは「手紙をくれた人の善意が、ちゃんとネパールで役に立っているのを知ってほしい。この人の心には神様がいてと思いましたが」と何度も感謝の言葉を繰り返した。

募金は現地の感染急拡大を受け、五月十九〜二十六日に実施。この匿名の手紙の寄付金のほかに、サロンには酸素ボンベ二十五人分となる約二十八万円の寄付があった。



寄付金とともに国際交流サロンに届いた匿名の激励の手紙。いずれも白山市内で

### 《 日々ひと言 》

何回ありがとうを言っても足りない。できれば会いたい

祖国の新型コロナ感染者の支援で、匿名の励ましの手紙と寄付に感謝するシャルミラ・ターバさん=15面

2021.6.9

7/4 (日) 北國新聞

白山の外国人に  
食材を手渡す  
会議所女性会

白山商工会議所女性会は  
3日、フードドライブ事業  
で集めた食品を白山市在住  
の外国人へ贈った。高松信  
子副会長らが市国際交流サ  
ロンを訪れ、日本語教室の  
生徒11人に袋詰めした食材  
を手渡した。

同会議所は6月8～10日  
に寄付を募った。集まった  
米や麺類、菓子、日用品  
などを小分けして計80セ  
ットを作り、30セットを  
中国やベトナムなどの外国  
人に進呈した。残り50セッ  
トは市社会福祉協議会を通  
じて困っている人に配分す  
る。

7/22 (木) 北國新聞

◆白山で多文化共生講演

白山市と同市国際交流協会の多文化共生啓発講  
演会「私は私そのままがいい」は市松任学習センタ  
ープララで開かれ、富山出身のジャズシンガーC  
HIKOさんが多様性を尊重し合える社会の実現  
を訴えた。CHIKOさんはアフリカの歌や富山  
の民謡を披露した。市民、外国人住民ら約130  
人が参加した。

7/27 (火) 北陸中日新聞

# コロナ下、オンライン交流 白山市と英・姉妹都市ボストン町

新型コロナウイルスの影響で外国でのホームステイができない中、白山市と同市の姉妹都市英国ボストン町の中学生らが、オンラインで親睦を深めた。

両市町の中学生は1994（平成6）年からホームステイを通じた交流を続ける。今年は新型コロナ禍で2年連続の中止になったが、ボストン町の中高生7人からオンラインで交流を希望する声が、市国際交流室に寄せられた。市が中学生に参加者を募ると、意欲のある8人から手が挙がった。

白山市の生徒と家族が24日、同市松任文化会館ピーノに集まり、オンライン会議アプリ「Zoom（ズーム）」で、ボストン町の7家庭と対面。英語で自己紹介をした。

松任中学校3年の得田佳那さん

(15)は、同学年のエディ・ストーンズさんに英語であいさつ。「日本に来たら一緒に白山に登ろう」と話し掛けた。自己紹介が終わると、英国の人口や首都、白山の標高などについてのクイズを楽しんだ。（都沙羅）

画面（写真手前）に映るボストン町の家族と交流する白山市の中学生ら  
|| 白山市松任文化会館ピーノで

## 来年こそは



7/27 (火) 北國新聞

英ボストンと  
オンライン交流  
白山の中高生  
白山市と姉妹都市・英ボ  
ストン町の青少年交流事業  
対面式||写真||は24日、オ  
ンラインで市松任文化会館



ピーノとボストン町をつな  
いで初めて行われた。

白山の中高生8人とボ  
ストンの生徒7人が対面し、  
相互理解を深めた。生徒は  
名前や趣味、家族などを紹  
介し合った後、ゲームで交  
流した。  
ボストン町とは旧美川町  
が2002年に姉妹都市と  
なり、合併で誕生した白山  
市が引き継いだ。両市町は  
毎年夏に生徒が行き来して  
ホームステイをしていた  
が、新型コロナウイルスの影響で昨  
年と今年は中止となった。

7/29 (木) 北陸中日新聞

# 日本の夏過ごし方は？

白山・にほんごカフェ  
実習生と住民が交流

白山市石川地区の技能実習生ら外国人と住民が交流を深める「にほんごカフェいしかわ」が、石川公民館であり、会話やスポーツを通して互いの人柄や国の文化にふれた。

カフェは、市内で最も外国人住民数が多い同地区で二〇一七年から二カ月に一度開いている。新型コロナウイルス禍で、この日は本年度初の開催となった。



日本語で楽しげに会話する外国人住民（左から2人目）ら  
白山市石川公民館で

ベトナムやミャンマー出身の技能実習生や特定技能外国人五人と住民のほか

に、金城大短期大学部（同市笠間町）の学生も参加した。「暑い夏の過ごし方」をテーマに日本の言葉「夏バテ」の意味や、開会した東京五輪・パラリンピックの気になる種目を伝え合って楽しんだ。

ミャンマー出身の特定技能外国人ウイン・ゾー・アウンさん（三）は「日本語でおしゃべりするのが大好き。今日は風鈴やすだれという言葉を知った。楽しくて面白い」と笑顔だった。会話後、参加者は併設された体育館でバドミントンやスカットボールに汗を流した。  
(都沙羅)

7/29 (木) 北國新聞

◇ 白山市横江町に「にこサロン」の会員は28日、市国際交流員から外国人との話し方や英会話のこつを学んだ。

◇ 同市横江農村研修センターで開かれた「まちかど市民講座」で、英国出身のダニエル・ヘリオットさんが講話を務めた。

◇ 参加した高齢者9人は「思い出に残っている国は？」などと盛んに質問。東京五輪で外国への関心が高まると見られる。

◆ 外国人と親睦深める  
白山市国際交流サロンの交流会「にほんごカフェいしかわ」は25日、同市石川公民館で開かれ、石川地区で暮らす外国人11人と地域住民ら14人がバドミントンや卓球で親睦を深めた。

参加者は「暑い夏の過ごし方」をテーマに会話を楽しみ、暑さ対策や夏の食べ物などで習慣の違いを比較し、打ち解けた。金城大短大部の学生も参加した。

8/9 (月) 北陸中日新聞

白山の中高、大学生 貧困や食料問題考える



貧困や食料問題などの国際的な課題について若者に理解を深めてもらおうと、白山市国際交流協会が8日、ワークショップ「世界がもしも100人の村だったら」を、同市古城町の松任文化会館ビーンで開いた。市内の中学、高校、大学生計11人が参加し、世界の格差や多様性を学んだ。(青山尚樹)

### 世界、もしも100人の村なら

講師は、青年海外協力隊としてフィジーで2年間活動した国際協力機構北陸(金沢市)の職員、甲斐翔子さん(34)が担当。世界を100人の村として、100人のうち10人は読み書きができないなど世界の現状を学んだ。

国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)にも触れ、甲斐さんは参加者に世界の平和のためにできることを問い掛けた。「買った物や食べ物を大切にする」「いろいろな人と交流する」「世界で何が起きているかよく知る」など多くの意見を出し合った。

市職員は「コロナ禍で世界との交流が断たれているが、世界で起きていることを学ぶことはできる。コロナが落ち着いたら、世界の人ももっと交流してもらいたい」と話した。

白山市笠間中学3年の長島玄楽さんは「いろいろな人と触れ合えて楽しかった。誰ひとり取り残さないというSDGsのキーワードが心に残った」と話した。

世界平和のためにできることについて意見を発表する参加者。白山市松任文化会館ビーンで



8/12 (木) 北國新聞

◆白山市がホームステイ調査

白山市は、同市の青少年ホームステイ交流に参加した派遣生を対象としたアンケート調査を実施した。派遣生540人のうち4割の221人が回答し、121人が「とても達成感があった」と答えた。コロナ禍でホームステイ交流ができないため、これまでの活動を振り返ろうと初めて調査した。

8/9 (月) 北國新聞

世界の情勢に理解  
白山市国際交流協会

白山市国際交流協会の国際理解ワークショップ「世界がもしも100人の村だったら」は8日、同市松任文化会館ビーンで開かれ、市内の中学生から大学生までの11人が世界の情勢に理解を深めた。

国際協力機構(JICA)北陸センター職員の甲斐翔子さん(34)が講師を務めた。参加者は世界の人口比や言語を学んだ後、貧困や環境破壊などについて班ごとに話し合った。世界にある格差や多様性を考えるきっかけにしてほしいと企画した。

8/26 (木) 北陸中日新聞

# 「白山市 誇りに思って」

## ヘリオットさん 国際交流員退任で感謝状

白山市の国際交流員（CIR）として英語通訳や異文化交流に携わってきた、ダニエル・ヘリオットさん（26）＝英国・リッチフィールド市出身＝が四年間の任期を終えた。白山市は十五日、ヘリオットさんに退任感謝状を贈った。

ヘリオットさんは高校卒業後、英国陸軍に入隊し、約三年間勤務した。軍の任期満了後、「遠い国の言葉を話せたらカッコいい」と考え、英国内の大学で日本語を学んだ。卒業後、外務省や自治体などで企画する「JETプログラム（外国語青年招致事業）」に応募し、二〇一七年七月、白山市に赴任した。



白山市国際交流員を退任したダニエル・ヘリオットさん。文弥人形浄瑠璃「でくの舞」の紹介動画に出演するなど活躍した。白山市東二口歴史民俗資料館で

た。

ヘリオットさんは市国際交流室の一員として、市内の保育園に赴いて英語で交流したり、市に伝わる東二口文弥人形浄瑠璃「でくの舞」（国重要無形民俗文化財）の紹介動画に出演したりした。市の親善友好都市米国・コロンビア市との国際交流行事などでは、通訳としても活躍した。

山田憲昭市長は、退任感謝状とともに、市国際友好表彰の記念プレート、牛首細のネクタイを贈って四年間の貢献をたたえた。

ヘリオットさんは四年間を振り返り、「あっという間だったが、貴重な経験がぎゅっしり詰まっている。白山市は便利だし、豊かな自然もあるめちゃくちゃ良いところ。地元を誇りに思っ  
てほしい」と第二の故郷にエールを送る。  
(吉田拓海)

8/26(木) 北陸

市初の国際交流員  
英国男性に感謝状

白山市

白山市で初の国際交流員として4年2カ月勤務した英リッチフィールド市出身のダニエル・ヘリオットさん(26)への感謝状・国際友好表彰の贈呈式が25日、白山市役所で行われた。

ヘリオットさんは「白山市は山や海、川に囲まれた魅力的な場所。次はプライベートで白山の皆さんに会いに来たい」と述べた。任期は9月12日までで、その後は東京で国際交流の仕事に取り組むという。山田憲昭市長が感謝状と表彰状を手渡し、ねぎらいの言葉を贈った。



8/31 (火) 北陸中日新聞

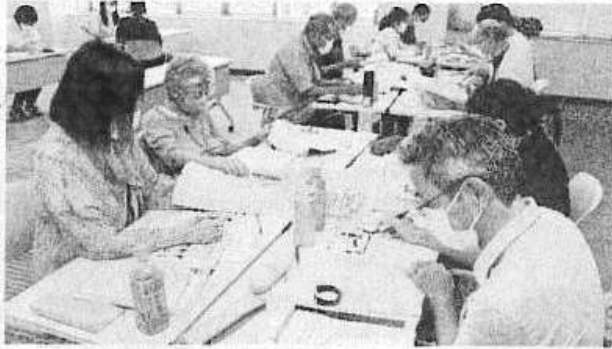
### 外国人住民の支援 災害時想定し学ぶ

白山で県など講座

地震などが起きた際に、外国人住民を支える災害時語学サポーター育成講座が二十九日、白山市古城町の松任文化会館ピノであった。地域住民ら十二人が参加して、災害時に想定される外国人のニーズなどを学んだ。

講座は県や県国際交流協会などの主催。国籍や文化の異なる人々が共に生きる多文化共生をキーワードに、災害時に日本語が十分

に理解できない外国人住民を地域で支援できるように



外国人に分かりやすい情報提供を話し合う参加者たち―白山市古城町で

するため実施。

災害を想定したグループワークでは、「危険」を「あぶない」と簡単な日本語に言い換えたり、浴室の場所を伝えるためにイラストを作製したりと、外国人に分かりやすい情報提供について意見を出し合った。

県内には約一万五千人の外国人が暮らしており、同協会職員は「いつ起こるか分からない災害に対して研修でスキルアップを図り、県民の方にサポートをお願いした」と話した。

(青山尚樹)

9/29 (水) 北國新聞

ジオパーク案内  
英語の表現法学ぶ

白山で勉強会

白山市国際交流協会の「英語で伝えよう！白山手取川ジオパーク勉強会」は28日、市松任文化会館ビーンで始まった。17人がジオパークに理解を深め、外国人に伝える表現方法を学んだ。

市ジオパーク・エコパーク推進課の中野加緒里さんが「ジオパークは地球や大

地の公園という意味。対象は動物や植物を含めた自然や環境まるごと理解してほしい」と説明した。ジオパーク公認ガイドの磯部雄三さんが鶴来地区や手取峡谷の見どころを紹介した。

勉強会は計5回開かれ、11月10日の最終回で県内在住外国人を対象としたモニターツアーを行い、協会員が英語で案内する。



ジオパークに理解を深める受講生  
|| 白山市松任文化会館ビーン

10/15 (金) 北國新聞



17日に県内初公演  
ホルマン氏が抱負

白山、人形浄瑠璃

白山市の姉妹都市である米コロンビア市にあるミズーリ州立大の元教授で、人形浄瑠璃徳米座のマーティン・ホルマン座長(64) || 徳島市在住、写真 || が14日、

白山市役所に山田憲昭市長を訪ね、市内で17日に行う県内初公演に向け、「白山とコロンビア市の交流が長くようお願いながら演じた」と抱負を語った。

日本文学が専門のホルマン氏は17日、松任ふるさと館でオリジナルの演目「夫婦獅子舞」を演じ、トークショーも行う。地元の東二口文弥人形浄瑠璃保存会と深瀬木偶回し保存会も出演する。会場は満員見込みで、希望者は動画投稿サイト「ユーチューブ」で閲覧できる。

10/20 (木) 北陸中日新聞

# 人形浄瑠璃 初競演に大喝采

白山市に江戸時代から伝わる人形浄瑠璃「尾口のでくまわし」の保存会と、徳島市の人形座「徳米座」が、市松任ふるさと館で初めて競演し、伝統芸能の魅力と可能性を発信した。演目が終わるたびに、観客約80人から大きな拍手が送られた。

「尾口のでくまわし」は国重要無形民俗文化財で、市内の「東二口文弥人形浄瑠璃保存会」と、「深瀬のでくまわし保存会」が継承。徳米座は、米国出身で徳島市在住の人形浄瑠璃研究家マーティン・ホルマンさんが座長を務め、2年前に結成。ホルマンさんは「尾口のでくまわし」を題材にした絵本の英訳などをした縁から、競演が実現した。

競演の催しは17日にあり、動画サイト「ユーチューブ」でも

## 松任 東二口、深瀬、徳米座へ観客

ライブ配信。

東二口は宝珠の争奪戦を巡る物語「大職冠」、深瀬は源氏と平氏の争いにまつわる物語「源氏烏帽子折」のそれぞれ一部を、「でく」と呼ばれる人形を巧みに操り、情感豊かに、時には勇壮に演じた。徳米座はオリジナル演目「夫婦獅子舞」などを披露。浮気した雄獅子が雌獅子に贈り物攻勢で許してもらおうとするコミカルなストーリーで、会場から笑い声が上がった。

上演前にはホルマンさんの講演もあり、でくまわしの魅力を「見ると催眠術にかかったような気持ちになる。不思議な力があって非常に感動する」と語った。動画は市ホームページの「伝統芸能による国際プロジェクト」コーナーから見られる。

(飯田克志)

((( 日々ひと言 )))

不思議な力があって非常に感動する

白山市の人形浄瑠璃「尾口のでくまわし」保存会と競演した徳島市の徳米座のマーティン・ホルマン座長＝20面  
2021.10.20



◎東二口文弥人形浄瑠璃保存会の「大職冠」の一場面。いずれも白山市設町で。◎深瀬のでくまわし保存会の「源氏烏帽子折」の一場面。◎徳米座も「夫婦獅子舞」を競演

10/23 (土) 北國新聞

# 石川南

## 5都市と動画で交流

### 松任小6年、英語で学校紹介

白山市松任小の6年生88人は22日、同校で同市の親善友好都市である海外5都市に向けて英語のメッセージ動画を撮影した。写真。コロナ禍で難しい手紙のやりとりを代え、児童は学校生活の様子や日本文化について伝えた。

市内の小中学校と海外5都市との交流は2016年

に始まり、昨年からは動画を交換している。児童は1学期の終わりから紹介する内容を考え、英語も学んできた。映像では国語や社会の授業内容、休み時間の過ごし方などを撮影し、10分以内にとまとめる。

9月には松南小と笠間中も動画を制作した。今月中に3校の動画を米国コロ

ビア市、英国ボストン町、ドイツ・ラウンハイム市、オーストラリア・ペンリス市、中国・溧陽市に送付し、11月以降に返事が来る見込みである。

松任小6年の砂田隼さんは「日本に来る時は白山市に寄ってくれたらうれしい」と笑顔を見せた。



11/18 (木) 北陸中日新聞

## 市交流協会員 外国人にガイド



# 白山ジオパーク 英語で教えます

白山市全域の自然景観や歴史文化を教育や観光に役立てる「白山手取川ジオパーク」の魅力を外国人に発信しようと、市国際交流協会の会員十人が英語の勉強に取り組んでいる。十七日には、実際に外国人を案内するモニターツアーを行い、英語のガイドに自信を深めた。

(吉田拓海)

白山手取川ジオパークは「霊峰白山に降った雨や雪が手取川の流れになり、日本海にそそぐ水の旅」をコンセプトに、山と雪、川と峡谷、海と扇状地の三エリアから構成。新型コロナウイルス禍で今夏に予定した現地審査が延期されているが、国連教育科学文化機関（ユネスコ）による「世界認定」を目前に控えている。

同協会は市と協力し、九月から全五回の英語勉強会を開催。同ジオパーク推進協議会の職員で、オーストラリア出身のソーザン・メイさんが協会員の英文をチェックするなどし、練習を重ねてきた。

モニターツアーには、県内在住の外国人五人（フランス、スペイン、ロシア、英語で綿ヶ滝について説明する白山市国際交流協会員とモニターツアーに参加した外国人たち）白山市下吉谷町で

## ユネスコ認定目前「魅力世界に伝える」

インドネシア、ネパール）が参加。日本の伝統にふれる白山比咩神社（三宮町）や、日本海まで見渡せる獅子吼高原（八幡町）、落差三十二メートルの綿ヶ滝（下吉谷町）をバスで巡り、協会員は覚えた英語で歴史や見どころを解説した。

綿ヶ滝では、紅葉し始めた手取峡谷の美しい景色と、水しぶきを上げる豪快な滝つぼの光景を堪能。ツアーに参加したロシア出身のアオスタシア・ペドロワさん（左）は「自然が好きなので、紅葉を見られて満足した。英語のガイドも良かった」と話した。

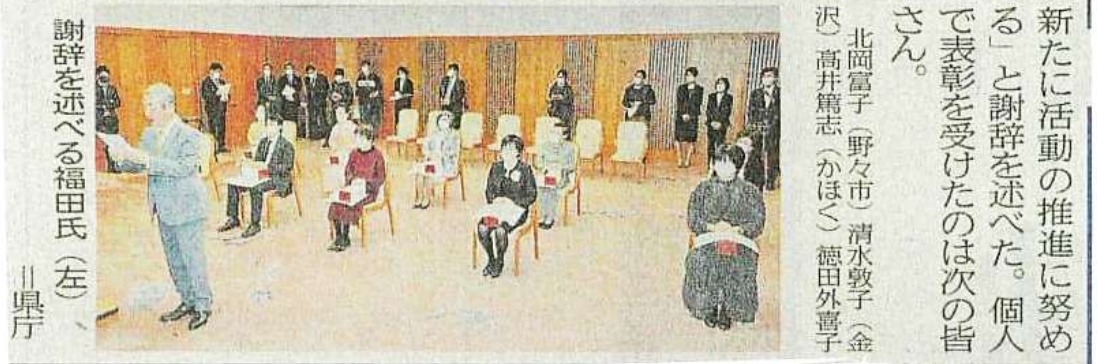
観光ガイドを務めた西田はる恵さん（左）は「徳光町は元中学校英語教諭。得意な英語を生かそうと参加し「自分の勉強にもなる。もっと勉強し、好きな場所の魅力を世界の人に伝えたい」と話した。

11/18 (木) 北國新聞

**国際交流推進に  
貢献の10氏たたえ  
県庁で表彰式**

県国際交流・協力功労者表彰式は17日、県庁で行われ、ホームステイの受け入れなどで国際交流活動の推進に貢献した10氏をたたえた。

谷本正憲知事が「オンラインを活用して国際交流が再開している。今後も輪を一層広めてほしい」とあいさつした。白山市国際交流協会の福田裕会長が「榮譽を契機に、草の根レベルの国際交流をさらに深め、心



謝辞を述べる福田氏（左）、  
県庁

新たに活動の推進に努める」と謝辞を述べた。個人で表彰を受けたのは次の皆さん。  
北岡富子（野々市） 清水敦子（金沢） 高井篤志（かほく） 徳田外喜子

（内灘）中野悠紀子（白山） 橋本多喜子（金沢） 福田裕（白山） 南園佳子（金沢） 横山照子（金沢） 西保淳甫（野々市）

**英語でジオパーク伝え  
鶴来でモニターツアー**

白山市国際交流協会のモニターツアー「写真」は17日、鶴来地区などで行われ、協会メンバーら10人が白山比咩神社や獅子吼高原、綿ヶ滝を巡り、県内在住の外国人にもPRし、地域を盛り上げていきたいと企画。

世界的にも注目が高まる白山手取川ジオパークを外国人にもPRし、地域を盛り上げていきたいと企画。全5回の研修を受けた協会メンバーが、神社の歴史や手取峡谷の特殊な地形などを説明した。



参加した西田はる恵さん（67）は「白山市の名所を英語で伝えるのは難しかったが、すこく面白かった。いろんな人に魅力を伝えていきたい」と話した。

11/18 (木) 北國新聞

11/29 (月) 北國新聞

白山市内で外国人が最も多く居住する石川地区で28日、外国籍の住民を対象とした防災研修会が初めて開かれた。外国人は言葉や育った環境の違いから災害時の円滑な行動が難しいとされるだけに、参加者は119番通報や応急手当て、担架の作り方の方法などを学び、有事に備えた。

研修会は市国際交流協会や石川公民館が主催し、同公民館で開かれた。近くの石川工業団地と周辺の工場で実習を受けているベトナム人やタイ人の技能実習生のほか、地元住民ら計15人が参加した。

松任消防署員4人が講師を務め、火事や救急の際には119番に電話することを説明した。毛布と2本の棒があれば担架の代わりとなることを教え、実習生は実際に作って負傷者を搬送できるか試した。

消防署員は意識不明の人を見つけたら、すぐに心肺蘇生を行うことが大切だと説明し、人形を使って胸骨圧迫の方法を教えた。

市によると、石川地区には住民の約5%に当たる200人以上の外国人が暮らしている。国別ではベトナム

白山市内最多 石川地区で初

# 外国人住民へ防災研修会

## 応急手当てを学ぶ

外国人が最も多く、これまで地域住民との融和を図るため、スポーツ交流などを行ってきた。市国際交流室の長島史晃

ベトナム出身のレ・クア シン・クホンさん(37)は「初めての体験だったが、とても良い勉強になった。災害が起きたり、けが人が近いにいたりする場合は今回学んだ知識を生かしたい」と語った。



けがの応急手当てを学ぶ参加者

白山市石川公民館

12/5 (日) 北國新聞

新任国際交流員に  
白山市が辞令交付  
白山市国際交流員の辞令  
交付式は3日、市役所で行  
われ、新任のエヴァン・ロ  
ーステッターさん(27)米  
国出身が市民の国際化推  
進や通訳、翻訳業務など  
の幅広い活躍を誓った。  
ローステッターさんは山  
田憲昭市長から辞令を受け  
「市民に米国の田舎につい  
ても興味を持ってもらいた  
い。英語教育の仕事を頑張  
りたい」と抱負を述べた。  
ローステッターさんは米  
国の2年制公立大で機械工  
学を専攻した後、大学で日  
本語を学んだ。任期は来年  
7月31日まで。

12/5 (日) 北陸中日新聞

「白山の皆さんの役に」  
国際交流員エバンさん着任



米国出身のエバン・ローステッターさん(27)が国際交流員として白山市に着任し、市役所で3日、山田憲昭市長から辞令を受け取った。市内在住の外国人のサポートや市全域の文化や自然を対象にした「白山手取川ジオパーク」の世界発信などの業務に携わる。  
エバンさんはオハイオ州出身で5年間、米海兵隊に勤務。日本の経済や文化に興味を持ち、独学で日本語を学んだ後、二〇二〇年から一年間オハイオ州立大で日本語を専攻した。日本には旅行で何度か訪れていたが、石川県は初めて。  
エバンさんは「白山市の魅力はきれいな山と今まで  
会った親切な人。早く皆さんの役に立ちたい」と話した。(青山尚樹)

山田憲昭市長委から辞令を受け取るエバン・ローステッターさん＝白山市役所で



# 日本の文化 遊んで体験

白山市国際協 外国人と住民交流



着物や民族衣装姿を披露する参加者たち=白山市西新町で

白山市国際交流協会の「国際交流の集い」が十二日、松任公民館の軽体育館であった。市内外に住む外

国人や地域住民約百六十人が、民族衣装のショーや日本の遊び体験など異文化交流を楽しんだ。外国人二人

12/14 (火)  
北陸中日新聞

による日本語スピーチもあった。ベトナムから来日して一年の中学三年生、南賀ハンさん(モ)は「日本に来て大切な友達ができた。みんなと交流するのがとても楽しい」と話した。ミャンマー出身のエンシニア、イ・タンダ・ミョーさん(ニ)は「日本の生活や文化になじめるか不安だったが、国際サロンのおかげでいろいろな経験ができた」と流暢な日本語でスピーチした。

民族衣装のショーでは、ネパールやミャンマーの伝統衣装や日本の着物姿を披露した。日本の遊びの体験ブースもあり、金城大(同市笠間町)の学生が、福笑

いやお手玉、かるまきなど伝統的なゲームを紹介した。

(青山尚樹)

12/14 (火) 北陸中日新聞

# 県内の日本語講師ら交流

県国際協が教室大会



日本語教育について話し合う参加者=金沢市無量寺町の金沢港クルーズターミナルで

県内の日本語ボランティアらが地域の日本語教育についての情報を交換し合う「県地域日本語教室大会」が、金沢市無量寺町の金沢港クルーズターミナルで開かれた。

県国際交流協会が主催し、今年で二回目。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大によりオンラインで開催した。県内各地の日本語教室の関係者ら約四十人が参加した。

参加者はグループに分かれ、日ごらの活動を報告。日本語教育を必要としている外国人への日本語教室の周知の仕方や、日本語教育に必要なスタッフの養成などについて話し合った。

同協会で日本語専任講師を務める今井武さんは「短い時間だったが、参加者は熱心に情報交換してもらった。日々の活動につながれば」と話した。

(西浦梓司)

12/26 (日) 北國新聞

# 子ども食堂で国際交流

## 白山・出城公民館

外国のじゃんけんを楽しむ児童  
白山市出城公民館



## コロナ代替で初企画

白山市出城公民館の子ども食堂「でじっ子キッチン」は25日、同公民館で開かれ、地元の小生ら約50人が国際交流やゲームなどを楽しんだ。コロナの感染防止で飲食を非営当の配布に委譲する一方、児童が楽しむ機会を設けようと、初めて国際交流員を招いて日本と外国のクリスマステーマにした内容で子どもたちの交流を後押しした。

参加したのは市国際交流員の米田出身エヴァン・ロステックさんと市国際交流協会のメンバーで中国出身の山村アイサ

を彩るイルミネーションに最も力を入れていると強調すると、子どもは異国のきらびやかな情景に想像を膨らませた。

山村さんは中国の小学校では、給食は家に帰って食べる人もいることを紹介した。中国の習俗「ジェンズ」の英訳もあり、山村さんが手本を示した後に、子どもたちは膝や足の甲を使って蹴鞠のようにジェンズを蹴り上げた。児童にクリスマス特製弁当が配られた。

12/27 (月) 北陸中日新聞

## 子ども食堂で国際交流

### 白山・出城 中・米の出身者招く



中国のじゃんけんを楽しむ子どもたち＝白山市出城町

白山市出城の出城公民館は二十五日、子ども食堂「でじっ子キッチン」を公民館で開いた。地元の小生五十人が参加。中国と米国の出身者からの文化や暮らしの紹介、クイズなどもあり、国際交流を楽しんだ。

同キッズは例年、夏休みと冬休みに開催。福地や地元のカルタなどを介して、食事と一緒にしていた。本年度は新型コロナウイルスの影響で、夏の間は開けなかった。この日は一掃に食事をする代わりに、国際交流イベントを企画した。

中国出身で市国際交流協会委員の山村アイサは、朝食は主に外食だった食卓のことで、新学期が九月に始まる小学校のことを紹介

介。米田出身の市国際交流員エヴァン・ロステックさんは、クリスマスのお返し方は紙袋が楽な場合と、家族だけで過ごす場合があることを説明した。

続いて、子どもたちは同国に関するクイズや、日本と少し違う中国のじゃんけんを楽しんだ。日本の羽根

突きを、足を使ってやったり中国の遊びにも挑戦した。交流後、新型コロナウイルスを心配して、子どもたちはクリスマス特製弁当を持参した。蕨城小四年の立川君は「田舎やアメリカの料理とかいろいろあって、私も興味がある」と話した。

(取材) 飯田亮太郎

2/5 (土) 北陸中日新聞

# 海外の学校生活 興味深い

## 笠間中生がメッセージ動画視聴

### 米中豪の5校から届く



(青山尚樹)

コロナ禍でも子どもたちの国際交流を深めようと、白山市笠間中学校の一年生二十六人が四日、海外の親善友好都市から届いたメッセージ動画を視聴した。ユニークな取り組みをする学校の様子が映し出され、同じコロナ禍を生きる海外の同世代に思いを巡らせた。

市国際交流室が主催。昨年秋に、生徒らは英語で自己紹介や日本の文化などを紹介した動画を市の五つある親善友好都市の学校に送った。一月までに、そのうち中国、米国、オーストラリアの三カ国五校から返事の動画が届いた。

生徒らは、海外の学校の風景や授業の様子に興味深く視聴した。中国・濮陽市から届いた動画では、命の大切さを学ぶため、小学三年生が蚕を飼育する様子を紹介。オーストラリアのペリス市では、一人で座っていると他の生徒が遊びに誘ってくれる、「友達ベンチ」という名のユニークな場所があることを学び、「ヘー」「おもしろい」と声を上げた。

視聴した岡田治樹さん(こは)は「どの学校も広くて自由度があつてすごかった。いろんな場所や文化を知ることができ、いつか行ってみたい」と話した。

動画の交流に参加した他クラスと松任小六年生、松南小五年生も後日、動画を視聴する。

親善友好都市から届いた動画を視聴する生徒ら＝白山市笠間町で

2/5 (土) 北國新聞

海外の親善友好都市から届いた動画を見る生徒  
—白山市笠間中



### 国際交流へ思いはせ 白山・笠間中

## 友好3都市の動画視聴

白山市笠間中の1年生26人が4日、同校で海外の親善友好都市から送られてきた動画を視聴した。米国、オーストラリア、中国の小中高校の生活が紹介されており、生徒は国際交流への思いを膨らませた。

笠間中生徒は昨年9、10月、市の動画交流事業として学校や日本文化などを紹介する映像を撮影し、5カ国の親善友好都市に送った。この返信のメッセージ動画が米国・コロンビア市、オーストラリア・ペンリス市、中国・溧陽市から市に届いた。

送られた動画のうち、ペンリス市の中学校は「友達ベンチ」があり、座っている生徒を別の生徒が誘って遊ぶ習慣があると紹介された。コロンビア市の高校では生徒が外履きのまま授業を受け、溧陽市の小学校では児童が赤いスカーフを首に巻いて登校する。岡田治樹さんは「海外の文化や学校生活を知ることができた。行ってみたい」と話した。

松任小と松南小でも動画を制作しており、今後、海外3市の映像が披露される。

2/10 (木) 北國新聞

2022年(令和4年)2月10日(木曜日) 北 國 新 聞

# 女の目

男の目

## 北京冬季五輪に注目

北京冬季五輪は、早くも競技開始が行われていますが、日本選手は、この大会で初のメダルを獲得する見込みです。中でも、高山滑雪女子の松元由実選手が、銅メダルを獲得し、日本人選手としては初のメダルを獲得しました。また、高山滑雪男子の山本聖弥選手も、銅メダルを獲得し、日本人選手としては初のメダルを獲得しました。

# 強い選手は謙虚で優しい

15日に北京五輪の冬季五輪で、高山滑雪女子の松元由実選手が銅メダルを獲得し、日本人選手としては初のメダルを獲得しました。

## 小山選手オーラ突出

小山選手は、北京五輪で初のメダルを獲得し、日本人選手としては初のメダルを獲得しました。

## 子どもたちの希望に

子どもたちの希望に、協会が取り組んでいます。

## スポーツに囲城はない

スポーツに囲城はない、協会が取り組んでいます。

松下みなと、坂田和代、山村テイ、松元由実、山本聖弥、高山滑雪女子、高山滑雪男子、銅メダル、日本人選手、初のメダル、北京五輪、冬季五輪、2022年、令和4年、2月10日、北國新聞。

3/10 (木) 北陸中日新聞

# 白山市外国人向け生活ガイド

外国人住民に向けて多言語で生活情報を解説するガイドマップ＝白山市役所で



白山市国際交流室は、外国人市民に市内の生活情報を紹介する「市生活ガイドマップ」の冊子を作った。英語、中国語、ベトナム語に対応している。市の生活情報を一覧できる外国人向けガイドブックを作るのは初めて。千冊をつくり、市役所窓口や市国際交流サロン(同市古城町)で配布する。

同市では、外国人市民が急増しており、白山市版の生活情報冊子「病気になるたら」や「防災・避難場所」など、暮らしに関わる十二項目を解説している。ほぼ全ての文章に三言語を併記しており、日本語の文章は簡単な表現に

## 英語、中国語、ベトナム語に対応

努力、平仮名のルビが振られている。各項目に対応する市ホームページなどのQRコードも掲載している。

同市松任地域には、製造業の工場が数多く立地し、ベトナム国籍の外国人実習生が数多く居住している。市によると、二〇二〇年二月末時点での外国人市民は千四百十五人で、多い順に、ベトナム、中国、フィリピンの人たちだった。

市はこれまでも、市役所に外国語を自動翻訳する音声翻訳機を設置し、案内に用いる言語を指さし式で選んでもらう「言語選択シート」を用意するなどしてきた。事前に市役所を訪れる日時を教えてもらえば、通訳も派遣する。

同室の長島史晃さん(五〇)は「約一年かけて取り組んだ。作って終わりではないので、有効活用していきたい」と話す。

ガイドブックは、A4判全十二ページ。製作は二〇年十月に取りまとめた「市多文化共生のまちづくり推進指針」の一環。

(吉田拓海)

3/26 (土) 北國新聞夕刊

3/22 (火) 北國新聞

◆ゲームや作業楽しむ  
 白山市国際交流協会の「はくさんキッズ英語スクール」は19日、市松任総合運動公園体育館で開かれ、小学4～6年の16人がキリストの復活祭「イースター」にちなんだゲームや作業などを楽しんだ。

# 舞台

松任文化会館ピーノを拠点に、外国人に向けた日本語教室や、日本文化が体験できる国際交流サロンを運営しています。サロンは日本語が苦手な人たちの相談窓口の役割も担っています。



福田 裕

白山市国際交流協会 会長

## 対面での交流を待ちながら

思ってもらえるよう、協会の機能充実や行政との調整に務めています。昨年11月には国際交流・協力功労者として石川県から表彰を受けました。協会の皆さんの支えと協力があってからこそ感謝しています。

長引くコロナの影響は国際交流分野にも支障をきたしています。白山市と5友好都市との相互訪問は中止となり、交流はインターネットに頼ることが増えました。

一方、相互理解と友情を育むには対面での交流が不可欠であると感じました。一日も早く通常の姿で国境を越えた交流ができる平和な世の中が戻ることを願っています。(白山市)